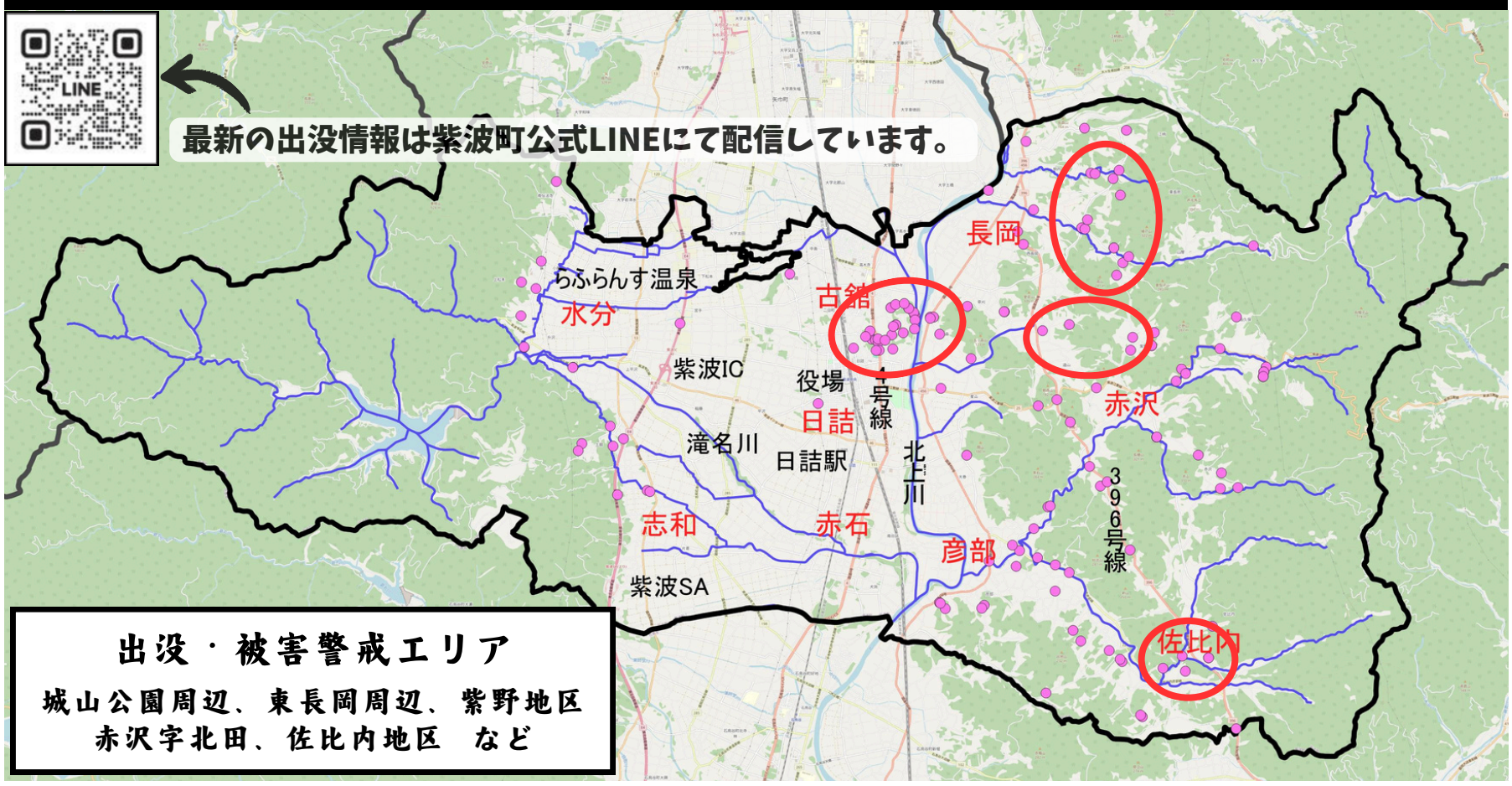
発行日　令和８年5月25日

紫波町におけるR1～R7年のクマ出没情報（5月）



出没・被害警戒エリア

城山公園周辺、東長岡周辺、紫野地区
赤沢字北田、佐比内地区　など

紫波クマ通信

14号

発行
2026年5月25日
紫波町環境課
地域おこし協力隊
近藤雄太

5月のクマ情報

5月に入って暖かくなってきたため、町内でのクマの出没もだんだんと増加してきています。川東地域での目撃が多いですが、町の西側でも目撃情報が出始めてまいりました。

また、最近は川東地域でクマによる米や米ぬかの被害が増加しています。一度味を占めたクマは出没を繰り返すようになりますので、米はクマが手の出せない鍵のかかる場所へ保管すること、不要な米ぬかは燃えるゴミに出すなどして廃棄することを徹底していきましょう。

餌に執着したクマは扉を壊して小屋に侵入するなどすることもあり非常に危険です。そのようなときにはすぐに役場まで連絡をいただくようお願いいたします。

町の公式ＬＩＮＥをご覧になっている方はご存じかもしれませんが、東長岡地区、赤沢地区周辺にて日中のクマの出没が続いております。町内では人身事故も発生しておりますので、外へ出る際にはクマスプレーを持ち歩くなど、十分に対策をしてお過ごしください。

５月末ごろからクマは発情期を迎え行動が活発になってきます。子連れのメスグマはオスグマを避けて人里周辺で活動し、オスグマはメスグマを追いかけて人里周辺へと近づいてきます。全国的に人身事故も多発しておりますので、家の周りの草刈りをしておくなどしてクマの出没しにくい環境をつくるなど、クマ被害にあわないために日々の対策に取り組んでいただければ幸いです。

ちょこっとクマ知識

米ぬかを食べるクマ

玄米を精米した時に出る米ぬか、畑の肥料として利用する人もいれば、そのまま捨ててしまう人もいる。少なくとも人間にとって食べ物にはならない米ぬかだが、野生動物にとっては非常に魅力的な餌となることを知らない人は多い。

シカやイノシシなどを捕獲する際に撒き餌として使われることもあり、米ぬかを目当てに小屋へ侵入して被害を出すクマがいたりすることもある。

農作物と違って被害にあっても損害はないからと気にされない人もいるが、それがクマ被害拡大の一因となることもある。一度米ぬかの味を覚えたクマはそれを目当てに人里へ出没を繰り返すことになる。それが小屋や精米機の損壊、ときには人身事故につながる恐れもある。

米ぬかに限らず、コンポストの生ごみなど人にとってはゴミであってもクマにとっては魅力的な餌となる例は少なくない。損害にはならないから気にならないではなく、将来の被害につながる一つの要因として考え、クマに食べられないための対策、行政への連絡を心掛けてもらいたい。

意外と知らない緊急銃猟の話

岩手大学に出没したクマ、青森市の商業ビルに迷い込んだクマなどニュースでも緊急銃猟という言葉を聞く機会は増えてきたように思う。制度ができてからまだ1年にもならないが、広く知られるようになってきた。しかし、その内容を正しく理解できていない人も多いのではないだろうか。

一般的に知られている内容としては、人の生活圏にクマやイノシシなどの危険鳥獣が出没した際、自治体の市町村長の判断により猟銃の使用を許可できるものといったところだろう。この制度によりクマが町中に出没した際、銃器を用いた捕獲による対応がやりやすくなったことは間違いない。だからといって、いついかなる時でも緊急銃猟を行えるというわけではない。

まず、緊急銃猟を行うためには周辺の安全を確保しなければならない。これは言葉にすると簡単だが、現実には容易ではない。周辺の安全を確保するためには緊急銃猟を行う区域から一般人を非難させること、誤って入ってしまわないように立ち入り禁止の措置をとることが必要になり、それを行うためには正確なクマの居場所を捕捉し続けなければならないからだ。

実際に町中にクマが出没しても歩き回って居場所の特定ができない場合には緊急銃猟を行うことは難しく、実際に行われるのはフェンスなどで仕切られた建物の敷地内や建物の中にクマが侵入した場合、木に登ってその場にクマが留まり続けている場合など特定の状況に限られる。

緊急銃猟はあくまでも最終手段であり、万能ではない。クマの出没自体をなくすためにはクマの餌になるものを外に置かないなど、日頃からできるクマ対策を心掛けていくことが大切だ。

来月のイベント情報

赤石公民館講座
「なぜクマは町にやってくるのか？」
6月12日(金)
10：00～11：00
開催場所
赤石公民館

バックナンバーはこちらから

今月の話題